

氏名：上野瑞希

所属：工学部 バイオ化学工学科 2年

派遣先大学：ラトビア大学

派遣期間：2016年3月1日～2016年3月15日

・日本語教室での指導内容

1日に初級、上級のクラスが90分ずつあり、同じ山形大学から来たチューターの人達と1クラスずつ交代で授業を行った。私の派遣期間内には多いときで7人のチューターがいたため、授業をしている人達以外は生徒のサポートにあたった。初級クラスでは日本語で簡単な会話ができるようになることを目標に授業を行った。例えば自己紹介や数字の数え方、

買い物と旅行を題材にした簡単な会話文を教え、ペアをつくって練習させた。上級クラスでは漢字を使いながら、文法、対義語、手紙の書き方を教えた。生徒さん達はとても熱心で日本語で私達とコミュニケーションをとることもできたため、授業は主に日本語で行った。また、上級クラスは生徒さんから取り扱ってほしい内容をリクエストしてもらい、その要望に応えながら行った。2クラスとも毎回生徒の人数が変わり、出席する人も違うため、1回の授業で1つの内容を終わらせるようにした。また、生徒は大学生もいたが高校生、大人が多かった。授業の後半では日本について深く知ってもらうために、パワーポイントを用いて茶道、日本の食べ物、震災について簡単にプレゼンを行い、そのあと日本の文化に関する動画（割りばしや自動販売機、昔話など）を観せた。そのほか、生徒さんは日本に留学を目指していたり、日本で働きたいと考えている人も多く、自分で勉強している内容に関する質問についてもサポートをした。

・日本語教室以外での現地での交流活動

授業のあと毎回生徒さん達とリガ市内でご飯を食べに行ったほか、週末には電車でラトビアの観光地へ連れて行ってもらった。教会やオペラ、博物館などヨーロッパならではの文化や歴史に触れさせてもらった。日本人だけではなかなか立ち寄れないような場所やレストランにも行くことができ、ラトビアでの生活を満喫できた。また寮には他の国の留学生もおり、共同キッチンであったため、料理をしながら話したりなど楽しいことばかりであった。

・プログラムに参加した感想

ラトビアはラトビア語を使うため、授業も生活も不安だったが、実際はラトビアのほとんどの人が英語を話すことができ、生活をしていくうえで言葉の壁を感じることは少なかった。また日本語クラスの生徒さん達の多くが他国から来た人達でお互いに英語で会話をしていたため、私もそれに交ぜてもらい交流しているうちに英語も学ぶことができた。初

めて直行便がない国へ渡航し、乗り継ぎ時間も短かったため、入国審査の際には搭乗時刻が過ぎており、次の日の便へと変更してもらった。トラブルもあったが食べ物も美味しく、過ごしやすかったうえ、友人、知り合いの先輩もおり、有意義な生活をおくることができた。

・自分の目標の達成度や努力した経緯

工学部の国際交流サークルに所属しており、そこでこの学生大使のプログラムを紹介していただいた。このプログラムに参加したことがある先輩達の英語力の高さを知っていたため、私にもできるのだろうかと不安ではあったが、英語でコミュニケーションをとる場を増やしたいと思い参加した。生徒さんたちと交流しているうちに、英語も聞き取れるようになり、観光にしても買い物にしてもすべて英語なので、英語で伝えるということに関しては目標を達成できたと思う。また、以前行った国では日本人であると分かると日本語で話しかけてきてくれたが、今回は外国人は英語で話しかけられるスタイルであったため、英語に触れている時間が長かった。しかし、授業において日本語をもう一度復習しないと私達も教えられない状態にあり、生徒さん達からの質問もレベルの高いものが多く、うまく教えることができなかった内容もあった。

・今後の展望

機会があれば学生大使派遣プログラムにまた参加したいと考えている。今回最初に希望していた国があったが、治安の問題でラトビアに急遽変更した。そのため、次回はその国にも行ける日が来ればよいなと思っている。また、大学生のうちに様々なプログラムに参加して、できる限り多くの国に行きたいと思っている。ボランティアのかたちで発展途上国に行くことや英語が主言語の国に行って英語を学びたいと考えている。



